

KBI NEWS

〒630-0266
 奈良県生駒市門前町 22-1
 TEL : 0743-70-8600
 FAX : 0743-70-8601
 編集・発行人：大田裕作
 郵便振替：01140-6-67708
 銀行：尼崎信用金庫上ヶ原支店普通 0015453
 Eメールアドレス：kbi-mark117@ares.eonet.ne.jp
 ホームページ：http://www.kbiwave.com



東日本大震災後に産み出された教会

宮城宣教ネットワーク 代表
 被災地宣教研究所 所長
 塩釜聖書バプテスト教会
 大友 幸一 牧師



「大震災から六年」

私の奉仕する塩釜聖書バプテスト教会は東日本大震災（二〇一一年三月）によって被災しましたが、高台に会堂があるために津波被害はありませんでした。教会員は六家族が津波で家を失いました。現在、新しい家を建てたり、復興住宅にすむようになって生活再建を果たしています。

「宮城宣教ネットワークをスタート」

大震災の半年後に宮城宣教ネットワークをスタートしました。宮城県の被災地を五つのブ

ロックに分けて、各ブロックに二人の世話人を立てました。世話人会は毎月一回開催されます。世話人以外にもボランティアやこの集まりを聞きつけて出席する方があり、毎回二十名前後の参加となっています。各ブロックでの報告があり、時にはどのようなして福音を伝えるか、どのように決心に導くかなどの課題が出され、みんなで経験を分かち合っています。

被災地宣教は私たちにとって初めてのことで、特別な先生はおられません。みんなが先生で、みんなが生徒です。成功したことも失敗したことも分かち合うことで、互いに学ぶようにしてきました。

ネットワークは教団・教派を問わないので、様々な教会からのボランティアとの出会いの場ともなりました。自分たちの働きは優れていると思っていると、他の分かち合いを聞いて謙遜にさせられることもしばしばでした。さらにボランティア活動がもたらすストレスや疲れについても分かち合われましたので、孤独にならずにバーンアウト

トの危険からも守られました。

「阪神淡路大震災の教訓を生かして」

教団・教派色が出てしまうと教会同士が張り合ってしまうような印象を被災者に与えてしまうことになり、宣教の妨げになることもあると、先の阪神淡路大震災から学んでいました。今回は、この宣教ネットワークによって被災者の求道心や様々な情報が分かち合われ、一元化されていきました。このことによって、被災者に関わったクリスチャンは多数でも、一つのキリスト教会として多様性のある関わりができました。

二〇一五年九月までにネットワーク内の三十八カ所にボランティアセンター、および家の教会や既存の教会のような教会が産まれました。また、九十人が洗礼の恵みにあずかり、それ以外にも決心者、求道者は四百人以上与えられています。被災地は日本宣教の常識では教会形成がきわめて難しい農村、漁村地域です。そこにこの結果が現れた理由の一つとして、ネットワークが挙げられるのではないかと思います。

入学の証

一年 渋谷 宝



私は、宣教師であった父を見て育ち、幼い頃から、「将来は、宣教師になりたい。」と漠然と思っていました。そして、成長するにつれ、自分の人生を神のために使いたい、という思いが益々強くなっていき、

「生きることはキリスト、死ぬことも益です。」(ピリピ人への手紙一章二十一節)のみことばのように歩みたいと思うようになりました。そして、母教会の先輩に勧められて、関西聖書学院への入学を決めました。

入学式の一週間ほど前のある日、知り合いの方から預言の言葉を頂きました。それは次のようなものでした。「今、あなたの前に光り輝く大聖堂の扉のよう

なものがある。しかし、中に入った後で、『自分は間違ったところにいるのではないか』と不安に思う時がくるだろう。その時は、どこから入ったのかを思い出しなさい。あなたは、神様の御座の前に行くのです。」

この時、自分の決断が、神様の御心の中にあつたことを知りました。

そして、KBIに入学後、神様が、祈りに答えてくださり、「もし、あなたが心が尽くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを見つかるだろう。」(エレミヤ書二十九章十三節)というみことばを示してくださいました。そして、神様は、「わたしは、あなたを新しいところに招こうとしているので、前と同じところでは見つからない。だから、探し求めなさい。」と言われました。私はまだ、これらのことを完全には理解できてはいませんが、神様が導いてくださったこの場所、神様のことをさらに深く知ることができていることを楽しみにしています。

入学の証

一年 金沢 晃



私は医者や牧師になるのが夢でした。

貧しい国へ行き、人々の心と体の両方を癒すことができれば、福音を伝える上で用いやすい器になれると、考えたからです。それが神様から与えられた使命なのだと思います。

しかし、高校卒業後、三年間、医学部に入るために勉強を続けましたが、叶いませんでした。医者になる夢を諦めきれず、その後、本当に医者になる道が主の御心なのかを知りたくて、毎日教会に通い、私を用いてくださいと祈り続けました。その中で、いつのまにか、自分中心に歩んでいたことに気付かされました。自分が何者なのか、神様

がどのようなお方かを知りました。そして、罪人の奴隷であった私がキリスト・イエスにあって自由にされ、救われ、永遠の命を得たのだと確信しました。

そして自分の夢や背負っていた全てのものを降ろし、十字架を背負って主の僕として献身することを誓いました。二十二歳の春のことでした。しかしその時は、神学校へ行く道は開かれませんでした。このような私が献身してよいはずがないと自分を責め、私の信仰は抜け殻のようになりました。

そのような状況の中、何度も私を呼んで下さる主がおられました。私のうちで、生きておられるキリストが、委ねられた福音が、騒ぐのです。「走りなさい。信仰を守り通し、最後まで勇敢に戦い、あなたに委ねた福音のバトンを、後に続く者に渡しなさい」と。

そこから私はもう一度献身することを決意しました。

そして、この春、KBIへと入学しました。

私は主から委ねられたバトンを握り、KBIの三年間を走り切りたいと思います。



三週間コースの証

一年 林 真由



特別講師の近藤由美先生の講義の中で、親との関係を見つめ、振り返る時が与えられました。私のために両親を選ばれたのは神様であり、今の自分がいるのは、惜しみなく与え、育ててくれた存在があるからなのだと、改めて気づかされました。自分と同じで、一人の人間として弱さや欠けを持ちながら私に良くしてきてくれた両親は、本当に当たり前ではない、神様からのプレゼントだと思いました。

三週間コースが修了し、親との関係が劇的に変化したわけではありませんが、神様が与えてくださった存在として、まず向き合うべき存在として、大切にしたいです。

三週間コースの証

一年 齊藤 志帆



神さまをもっと知りたい、神さまと深く交わりたいという思いが起こされ、三週間コースに参加しました。

しかし、神さまに聞き従いきれずにいた私の心の奥には、罪悪感など様々な感情が渦巻いていました。そのような中で、授業や祈り、礼拝そして賛美を通して、神さまは真実で正しいお方で、揺るぎない愛を注いでくださっていること、私の罪を十字架で贖われ、復活し、今も変わらず私の隣にいて、こんな私でさえも赦してください、神さまのご計画されている道へ歩むよう招いてくださっていることを今まで以上に強く実感しました。



大友先生著書紹介

①『震災と信仰調査』報告書
被災地において、震災後どのような宣教活動が行なわれたか、また震災がキリスト教会の宣教のあり方や個人的な信仰面にどのような影響を及ぼしたかを様々な角度から調査したものです。

②『東日本大震災と教会増殖』
大友牧師が震災前から取り組んできた教会形成や牧会が、震災後の宣教にどのように役立ったかを明らかにしています。また、宮城宣教ネットワークの働きやその結果についても記しています。

図書案内

東日本大震災から5年半。震災後の宣教活動の報告書と、宮城宣教ネットワーク代表の著書が出版されました。両書を併読することで被災地宮城県に注がれた神の恵みをよりよく知ることができます。
2016年9月



①「震災と信仰調査」報告書
発行日 2016.7.20 <B5版/120頁>
編者 大友幸一 柴田初男
ヒューレット・ネリ子
発行 東京基督教大学国際宣教センター
日本宣教リサーチ
定価 1,000円



② 東日本大震災と教会増殖
～被災地で福音の花を開かせたネットワーク～
発行日 2016.9.15 <A5版/196頁>
著者 大友幸一
発行 アジアアクセス・ジャパン
定価 500円(献金)
(宮城宣教ネットワークのために用いられます。)

【お問合せ・注文先】 〒985-0831 宮城県多賀城市笠神2-11-45
塩釜聖書バプテスマ教会
TEL:(022)362-7468 FAX:(022)362-7497 Eメール:vis.7000@f4.dion.ne.jp

特別講義

「共に生きるー福音の花咲く被災地で」を受講して活けるキリスト高田一麦教会 菅 徹哉

受講を感謝します。開口一番「復興後も、人はいつか死ぬんです。救いが必要です。」と語られる大友先生の情熱に引き込まれ、特に、「宮城宣教ネットワーク」に感銘を受けました。宮城県下の被災地域に点在する各個教会を、同一地域の伝道責任を負う一体の教会と考え、求道者の情報、伝道方策の成功例、失敗例

■昨年度修了生(訂正)

二年修了
長野有花子(西宮福音教会)
一年修了
藤田元美(福井自由キリスト教会)
●編入生 二年次編入
伏井奈穂子(南大阪福音教会)
吉田ゆり(沖繩ザ・クロスチャーチ)



すらも共有し、その地域に有効な宣教の道を共同で追及する動きは、まさに震災の故に、救霊の緊急性に再献身し、教派枠を超えて行く教会の姿を見た思いがし、感動しました。家の教会の概念も再考する機会となり、恵み一杯でした。

- 二〇一七年度 入学生 ●
- 三週間バイブルコース
- 上野喜羽(南大阪福音教会)
 - 安念恵美(HOPE HOUSE 金沢)
 - 岩田里香(御殿場純福音キリスト教会)
 - 梶山結衣(ニュータウン・カルバリー・フェローシップ)
 - 片岡愛理(活けるキリスト一麦西宮教会)
 - 金石順子(リバイバルチャーチ)
 - 三堂由貴(ニューライフキリスト教会)
 - 山本満由美(奈良福音教会)
- (CPRCコースにて継続)
- 本科コース
- 浅井 大輔(J-house)
 - 石川 良治(志度キリスト教会)
 - 梶川 光(活けるキリスト大阪一麦教会)
 - 金沢 晃(大阪オンスリキリスト教会)
 - 渋谷 宝(峰町キリスト教会)
 - 森 勇喜(高島チャペル)
 - 荒川 朱香(峰町キリスト教会)
 - 斎藤 志帆(喬木教会)
 - 水谷 香(千代田福音教会)
 - 饒平名 真実(与儀ファミリー教会)
- CPRCコース(教会開拓刷新コース)
- 大八木 剛(京都クリスチャンフェローシップセンター)
 - 菅 徹哉(活けるキリスト高田一麦教会)
 - 菅原 純次(金津福音キリスト教会)
 - 川端 恵子(ジーザスハウスチャーチ)
 - 長島 鏡子(京都クリスチャンフェローシップセンター)

学院探訪



インマヌエル綜合伝道団 高津キリスト教会

藤本満師

「牧師のおもてなし精神」

関西聖書学院を訪れたのは二回目です。以前は、福音主義神学会の全国研究会議のときでした。これまで多くの神学校を訪れる機会に恵まれてきましたが、素晴らしい建物と立地にあるこの神学校は、群を抜いています。そのときの思い出があります。水のペットボトルが自由に配布されましたが、演壇に用意されたボトルだけが小さいのです。なんと細やかな心遣いでしょ。発題者を邪魔しないように、ボトルの背を低くしてくれたの

です。

再び訪れますと、パワーポイント担当、出席担当とそれぞれが気持ちよく、スマートに奉仕されています。泊めていただいたゲストハウスは、新築そのもので、きれいに掃除されていて、使うのが申し訳ないくらいでした。

金曜日の午後は作業があったようです。院長夫妻と神学生があの広大なキャンパスを整えていました。礼拝堂の大きなガラスはブランドショップのように曇り一つありませんでした。昨今、神学校で作業やおもてなしの尊さを教えることの難しさが話題になります。やがて牧師となって教会員をお迎えし、教会堂を整えます。さらに、それらを全部ひとりで抱えるのではなく、係として分担するという教会運営のあり方を、神学生はこのキャンパスで身につけていくのでしよう。

土曜日に、説教をさせていただきました。実習派遣を前にした祈りのときです。当初、大田先生からお招きを受けたときに、

ぜひ、土曜までと繰り返しおっしゃられた意味がわかりました。神学生が主体となった集会で、共に祈り、主の力づけを受けて派遣されていく神聖な時に、小さき者も加えていただいた恵みは忘れることはありません。それは真実で真剣な営みでありながら、どこかとても開放的でした。これがこの神学校の持ち味だと実感して、私も自教会に派遣された土曜日でした。



特別講義

「組織神学 聖書論」

を受講して

三年 紙野雄平

宗教改革から現代へと続く聖書論の歴史の学びを通して、聖書論が時代の風潮や思想に影響されつつ、形成されたことを知りました。知的、言語的だった聖書信仰は、現代では、同時に「実行力を持った救いの導管」として、伝道的且つ、救済論的であることが求められています。特に教えられたのは、聖書の物語理解です。聖書の物語性は御言葉の啓示の豊かさを認めることであり、解釈の曖昧さを強調することではありません。説教者の役割は、神の物語と人の物語を合わせることで、聖書を、記録ではなく記憶として語ることです。聖書は今何を語っているのか？それが人々へのはげみや慰めとなります。聖書を物語として読んでいくとき、そこに現わされるみことばの豊かさ、多様性が、私たちを映す鏡となることを知りました。

教師会報告

学院長 大田裕作



KBI教師会は、五月の第二週と一月下旬の年二回開催され、主に学生の状況や指導方針、卒業論文の指導者分担や教師会主催の秋の実践神学シンポジウムなどが議題になります。去る五月一六日の教師会は特筆すべき時となりました。

この数年、次世代教師陣の発掘と育成を課題にしてまいりましたが、集合写真をご覧ください。今回は八名の次世代の教師方が揃い、私の心は喜びに弾みました。働き人の育成を課題とする聖書学院で次世代の教師が

育たなかったなら、看板に偽りありということになります。これで少し安心です。これらの若い世代の先生方には牧会の中で一層主から教えをいただき、奮闘しながら成熟し、学生の指導に関わっていただきたいと願っています。

今回は豊村泰師のスウェーデン研修の報告や佐々木拓也師の授業報告から投げかけられる課題(若者の育成)を受けて、KBIの目指すべき方向性について話し合いが重ねられました。時間が足りない熱い会でした。ちなみに前述のお二方以外に次世代に属する先生方は、李守師、小山健師、上田勇矢師、福野貴嗣師、檜垣正裕師、林田裕樹師です。よろしくお祈りください。



●週末奉仕教会●(母教会は除く) 一年生

- 石川良治(園田チャペル)
- 洪沢宝(敦賀自由キリスト教会)
- 森勇喜(蛍池聖書教会)
- 荒川朱香(ヒルズチャーチ)
- 斎藤志帆(八尾南福音教会)
- 出戸バイブルチャーチ
- 饒平名真実(川西福音教会)
- 二年生
- ナタイル 羅泰日(名古屋グレイスキリスト教会)
- 廣瀬開(千代田福音教会)
- 饒平名基喜(チャペル犬山)
- 岩井輝子(狭山福音教会)
- 佐藤環(ベテル清水教会)
- 長谷川みちる(野崎キリスト教会)
- 吉田ゆり(ジーザスハウスチャーチ)
- 三年生
- 紙野雄平(大阪西成教会)
- 河村シオン(明石福音教会)
- 大塚マリ(北鈴蘭台教会)
- 佐々木望(垂水福音教会)
- 竹内史子(須磨自由キリスト教会)



生駒山麓公園にて

ご献金感謝します

献金者名簿（日付順・敬称略）（2017.2.6～5.15）（KBIへの直接献金分）

■一般会計献金

< KBIを支える会 >

個人：南澤順子、岩本美保、井野葉由美、福元玲子、秋元清友、菅徹哉・直美、大田裕作、安黒務、伊達山洋子、黄金井尚美、門谷皖一、斎藤邦夫、兼松道子、安野清子、豊村善典、石崎政登、増永弘、田中憲昭、真島義典、熊本直美、金森徹・和子、鶴野英子、服部守一、荒川聖志、竹原義和、吉田隆・恵利子、福島好司、山田裕一、安村元秀、山本篤、上田絢子、福田徹生、山中多美子、小山大三、兼松千佳子
匿名希望1名、氏名不詳1名

教会 & 団体：奈良福音教会、峰町キリスト教会、千代田福音教会、尾上聖愛教会、狭山福音教会、旭川神愛キリスト教会、箕面福音教会、京都シオンの丘キリスト教会、八尾南福音教会、垂水福音教会、久留米ベテルキリスト教会、設楽キリスト教会、西可児キリスト教会、KBI賛美集会、堺福音教会、札幌キリスト福音館、生駒福音キリスト教会、カナンプレイズチャーチ、鈴鹿キリスト福音教会、関西カルバリーフェローシップ、チャペル犬山

< 運営支援献金 >

1. 支援団体献金

鶴見純福音教会、岐阜純福音大森チャーチ、TPKF イースト、伊勢原聖書キリスト教会、岐阜純福音教会、日本福音教会（JEC）、須磨自由キリスト教会、御殿場純福音キリスト教会、保土ヶ谷純福音教会、KBI支援協力会（FCMF 諸教会）、ジャパン・ベサニー・ミッション、フィラデルフィヤグループ合同集会（TPKF イースト諸教会）

2. 特別献金

個人：中坊久行・洋子、小森康三・仁美、高橋富廣

教会 & 団体：ブレスユアホーム、犬山キリスト純福音教会、札幌キリスト福音館

● **KBIを覚える日献金：**岡山チャペル

■奨学基金献金

個人：小森美穂、竹川正英、芝蓮代、出原市子、轟節雄

教会 & 団体：横須賀クリスチャンセンター、西可児キリスト教会、関西カルバリーフェローシップ

■建設基金献金

個人：春名裕、竹原義和

教会 & 団体：伊勢崎神愛キリスト教会、岐阜純福音教会、秦野クリスチャンセンター
関西カルバリーフェローシップ

※ KBI への直接献金分のみ記載しています。各団体に献金してくださっている場合、教会名でなくその団体名を記載しています。どうぞご了承ください。

● 2016年度 KBI 会計報告 (2016.4.1~2017.3.31)

①一般会計	(収入)	KBIを支える会献金	3,790,052	(支出)	維持管理費	9,332,557
		支援団体献金	16,154,305		経営費	12,567,675
		特別献金	2,654,061		人件費	18,968,636
		学生維持献金他	25,994,499		建設会計への繰入金	3,000,000
		前年度繰越金	3,468,182		退職金引当金	1,000,000
	収入合計	52,061,099		教師育成助成金	500,000	
				聖書出版融資	2,000,000	
				次年度繰越金	4,692,231	
				支出合計	52,061,099	
②建設会計	(収入)	特別献金	193,000	(支出)	各種対策工事費	2,524,822
		資産管理収入(維持献金含む)	4,084,285		施設利用維持管理費	347,240
		一般会計からの繰入金	3,000,000		修繕積立金	5,000,000
		前年度繰越金	801,712		次年度繰越金	206,935
		収入合計	8,078,997		支出合計	8,078,997
③奨学基金	(収入)	奨学基金献金	820,000	(支出)	奨学金支給	800,520
		前年度繰越金	3,269,773		次年度繰越金	3,289,253
		収入合計	4,089,773		支出合計	4,089,773

●OB・OG通信●

○高橋めぐみ宣教師

エンティコン・グロリア寮の建設が順調に進みますように。

○高橋真一・千恵美宣教師

ビザ状況の変化を受けて岬福音教会の牧師に就任し、モンゴル宣教も継続します。

○安川圭吾・美穂宣教師

子弟教育のために美穂師のご両親が六〜八月の三ヶ月間、奉仕中です。また続くヘルパーを求めています。数週間単位でも結構です。

○東聖士師(堺福音教会)

二〇一七年度卒
西カリマンタンの寮建設の現場の管理責任の使命を覚えて出発しました。五月一日。約半年の予定。

○結婚おめでとうございます。

一月一日

熊澤百合愛姉、平吹光太郎と

五月二〇日

石坂潤兄、正村聡子姉と

六月十日

小森美穂師、伊藤耕二兄と

《就任式》

三月三〇日

西小野健師 牧師就任式

郡山聖書バプテスト教会

四月三〇日

黄金井尚美師 主任牧師就任式

尾上聖愛教会

六月一日

桧垣正裕師 主任牧師就任式

西宮福音教会

緒方賢一師夫妻 牧師就任式

奈良福音教会

荒井恵子師 牧師として就任

大和あがないの丘キリスト教会

●二〇一七年度 行事予定●

九月五日(火)

二学期始業

一〇月三日(火)〜六日(金)

前期テスト

一〇月一日(水)〜二三日(金)

ワーカーズシェア

一〇月一七日(火)

後期スタート

十一月一日(土)〜二日(日)

KBIを覚える日

十二月八日(金)

二学期終了

一月九日(火)

三学期始業

二月初旬

三年生アウトリーチ

二月二〇日(火)〜二三日(金)

後期テスト

三月八日(木)

卒業派遣式